

ナンテのアノテーションとガイドライン

松下ミュ・田上雷悟・福井彩香・本田優月 (九州大学文学部)
 上山あゆみ (九州大学大学院人文科学研究院)

概要

ナンテという語は、さまざまな用法を持っている。このようなナンテのさまざまな用法について、9つに分類し、分類のためのフローチャートを作成した。実際にガイドラインに沿って『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)によってアノテーションを試み、カップ値を計算すると約0.63となり、ある程度信頼性のあるガイドラインが作成できたと結論づけた。

1. はじめに

本発表はナンテを機能分類し、自然言語処理に活用できるようにする試みである。助詞ナンテは飛田,浅田(1994)や磯山(2000)、滝(2018)などの中でナドの口語的な用法とされ、軽視や例示をはじめとして、いくつかの分類設定の試みがなされている。しかし、基準が曖昧なものや複数の用法にまたがって該当するものもある。このように、実際の用法は複雑かつ多岐にわたるため、コーパスの有用性をより高めるべくも分類のガイドラインを作成する必要がある。本発表では、ナンテの様々な用法について分類ガイドラインを作成し、実際にアノテーションを試み、その結果を述べる。

2. ナンテの分類ガイドライン

まず、提案するガイドラインを示す。

①	不定	後部の内容が不定であることを表す。
②	程度の甚だしさ	・後部の要素の程度が甚だしい事を表す。 ・「なんと(いう)」に置き換え可能かつ「(の、ん)だろう！」と共起可能。

③	状態、感情の暗示、強調	・前部に主体が何かしらの状態、感情を抱いていることを暗示、気持ちを強調。 ・「とは」と置き換え可能。
④	至高	否定表現と共起。否定を越えて直前の要素を最大値まで高める。
⑤	軽重の評価	前部の持っている価値に主体が評価を下していることを表す。
⑥	実現可能性の低さ	前部の要素を非現実的なもの、実現可能性の低いものとしてとりあげる。
⑦	代表の提示	・後部に推薦表現共起可能。 ・前部の内容を、あるカテゴリーの代表として明示する働き。
⑧	ごまかし	前部に対する、話し手の照れや恥ずかしさをごまかす。
⑨	婉曲的引用	前部を引用しつつ、その印象を弱める。

3. 用法の詳細と例文

ナンテの用法をガイドラインの通り、9つに分類した。以下、それぞれの用法の基準について例文と共に記す。以下、特に記載がないものは全て作例である。

3.1. 不定

このナンテは後部の要素に係る。また、ナンテを「なんと(いう)」に置き換え可能である。

- (1) a. おじょうちゃん、なんて(=なんと)名前？[飛田・浅田
1994:411(1)-①]

- b. 彼女になんて(=なんと)言い訳すればいいんだ。[飛田・浅田 1994:4:411(1)-②]

(1)は、後部の「名前」「言い訳」が不定であることを表している。このような場合、ナンテは「不定」に分類される。

3.2. 程度の甚だしさ

「不定」同様、ナンテが後部の要素に係る。また、ナンテを「なんと(いう)」に置き換え可能である。その他、以下のように「～(の/ん)だろう!」と共起可能である。

- (2) a. この灯台からの風景はなんて(=なんと)美しいんだ!
=この灯台からの風景はなんて美しいんだろう!
b. プロ初打席でヒットを打つとは、なんて(=なんと(いう)選手だ!
=プロ初打席でヒットを打つとは、なんて選手だろう!

後部の要素の程度が甚だしいことを表す場合、「程度の甚だしさ」に該当する。aでは「美しい」こと、bでは「選手」の程度の甚だしさを示している。

3.3. 状態・感情の暗示・強調

この用法は、ナンテが文末にある場合と、ナンテの後部が省略可能である場合の二つの場合がある。後者では、ナンテの後部には(4)、(5)のように前部の要素に対する感想、疑問が述べられる。これらは、ナンテを「とは」に置き換え可能である。

- (3) まさか結婚の話が嘘だったなんて!
(4) a. シチューがこんなにまるやかなんて、驚いた。
b. シチューがこんなにまるやかなんて。
(5) a. 急に部屋が綺麗になるなんて、何が起きたのだろう?
b. 急に部屋が綺麗になるなんて。

この2つの場合をともに満たすとき、このナン

テは、主体が何らかの状態にあることや何かしらの感情を抱いていることを暗示、その主体の気持ちを強めたりする働きを持つ、「状態、感情の暗示、強調」に分類される。また、この用法ではナンテが前部の要素に係る。

3.4. 至高

「ナンテ(いう)ものではない/ありません/すまない」の形をとる。また、この用法ではナンテが前部、後部の要素にとともに係る。

- (6) ディズニーランドを貸し切りにできたら、楽しいなんてものじゃないだろう。

(6)のように否定表現と共起し、直前、ここでの「楽しい」を否定することで、その否定を超えて直前の要素を最大限まで高める。こうした場合、「至高」に分類される。

3.5. 軽重の評価

ナンテの前部の持っている価値に主体が評価を下していることを表す場合、「軽重の評価」に分類される。また、この用法ではナンテが前部の要素に係る。

- (7) a. 江戸っ子なら、安い寿司なんて食べるな。
b. 白鳥なんて、この世で最も美しい鳥とっていい。

一つの用法ではあるものの、ラベルにあるように、評価は一通りのものではない。例えば、aのとき、主体は「江戸っ子であれば安い寿司というものを食べるべきはない」という風に「安い寿司」に対して低評価を下している。また、bの場合では、主体は「白鳥」に高い評価を下していることが後部の内容からうかがえる。このように、低評価、高評価の2つの評価がこの用法には含まれている。

3.6. 実現可能性の低さ

この用法は、(8)のように「ない」「できない」等の存在や実現を否定する表現と共起可能である。また、ナンテが前部の要素に係る。

- (8) a. 当時の日本には、ラジオなんて無かった。
b. あいつとの結婚なんて絶対認めることはできない。

このようにナンテが前部の要素を非現実的なもの、実現可能性が低いものとしてとりあげていると解釈可能である場合、「実現可能性の低さ」に分類される。

3.7. 代表の提示

この用法はナンテの前部の内容をあるカテゴリーの代表として明示する用法である。また、この用法ではナンテが前部の要素に係る。

- (9) a. 週末なんて、渋谷まで足を運んだわ。
b. ボーダーのTシャツなんて、いかがですか？
c. 大学入試用の問題集として、赤本や黒本なんてものが有名だ。

bのように、「どうですか」「いかがですか」等の推薦表現と共起する場合や、cのように「赤本」と「黒本」という、複数の同質の要素を列挙する場合のときも、この用法に分類される。

3.8. ごまかし

ナンテが、前部で述べられた内容に対しての話しての照れや恥ずかしさをごまかす働きをしていると解釈可能である場合、「ごまかし」に分類される。この用法では、ナンテは前部、後部いずれにも係らない。

- (10) a. 俺がどんなときでも駆けつけてやる、なんてな。
b. (プロポーズ)僕が一生全力でお守りしますから、なあんてね。[飛田・浅田 1994:412(4)-⑩]

(10)のように「なんてね」「なんてな」などの終助詞を伴う形で多く用いられる。また、ナンテそのもの、ないし「ナンテ+終助詞」を省略したとしても、文全体に影響がないことが特徴である。

3.9. 婉曲的引用

基本的に、ナンテの前部に伝達、あるいは思考を示す内容が述べられており、それらを表す名詞や動詞と共起しやすいことが特徴である。

伝達を表す名詞、動詞の例としては「言う」「聞く」「意見」「報告」などが挙げられる。思考を表す名詞、動詞の例としては「思う」「想像する」「悩み」「考え方」などがある。

また、bのように、前部が固有名詞であるパターンもある。

- (11) a. 先生から「明日の遠足は中止だ」なんて言葉が発せられた途端、教室の雰囲気は一変した。
b. 川崎A子さんなんて名前、聞いたことありません。
c. 携帯電話を忘れるなんて(=という)経験くらい、誰にでもある。

この他、cのように、ナンテが「と(いう)」「など(という)」に置き換え可能である場合、「婉曲的引用」に分類されることがある。そしてこの用法に分類されるナンテは、前部の内容を引用しつつ、その印象を弱める働きをする。また、この用法では「至高」同様、ナンテが前部と後部の要素のいずれにも係る。

4. 用法の補足

ナンテは複数の用法に共通する特徴がいくつかある。まず、「ナンテ(いう)こと/もの」という形の場合、「は」「を」「が」「こと/ものは」「こと/ものを」「こと/ものが」に置き換え可能である。これは9つの用法の内、「軽重の評価」「実現可能性の低さ」「代表の提示」の3つに該当する。

- (12) a. 付け焼き刃の技術なんて(=は)ボロが出て当然だ。
b. たった一度の失敗なんてもの(=を)いつまでも引きずるなよ。
c. 空がこんなにきれいな色になるなんてこと(=ことが)、本当に起こり得るのだろうか。
d. 7月中に夏休みの宿題を終わらせ

るなんていうこと(=ことを/のを)、
初めてやった。

次に、ナンテに係る部分についてである。
特徴として、「前部」に係るもの、「後部」
に係るもの、「前部、後部両方」に係るも
の、そして例外としてどの要素にも「係らな
い」ものの4つに分けられる。9つの用法を4
つの区分に分けたとき、以下のようになる。

- (1) 前部...「不定」「程度の甚だしさ」
- (2) 後部...「状態、感情の暗示、強調」「軽
重の評価」「実現可能性の低さ」
「代表の提示」
- (3) 前部、後部両方...「至高」「婉曲的引
用」
- (4) いずれにも係らず...「ごまかし」

5. アノテーション結果

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)
からナンテを含んだ例文 500 例を抽出し、上記の
分類ガイドラインに従って実際にアノテーション
を行った。九州大学文学部所属の、ナンテの分類
に関与していない学生2人がそれぞれアノテーシ
ョンを行い、その結果からカッパ値を計算したと
ころ、約 0.63 となった。アノテータ間でぶれの少
ない、ある程度信頼性のあるガイドラインが作成
できたことになる。今後、ずれの見られるところ
を中心に更に検討を重ねていきたい。

参考文献

- 井島正博 (2008) 「クライ・ホド・ナンカ・ナンカ・
ナンテの機能と構造」, 『日本語学論集』, 4: 42-
97.
- 磯山麻衣(2000) 「「なんて」の意義と用法」, 『昭和
女子大学大学院日本文学紀要』, 11:1-11
- 滝理江(2018) 「例示の機能をもつ助詞ナンテの意味
分析-カテゴリーの観点から-」, 『日本認知言語学
会論文集』, 18:393-405
- 飛田良文, 浅田秀子(1994) 『現代副詞用法辞典』, 東
京:東京堂出版